

●シリーズ●わがまちの文化財へ29

国指定重要文化財 木造 十一面観音立像 (二軀)

昭和3年8月17日指定

今高野山観音堂(真言宗)の本尊で、写真右の像はセンダン材の一木造り、彫眼彩色で像高1.8m。昭和12(一九三七)年修理の際に、背ぐり部分から麻布と和紙に包んだ延喜通宝(10世紀の古銭)が発見されました。これにより制作年代が10世紀ということがわかりました。写真左の像はケヤキ材の一木造り、彫眼素地で像高1.7m。いずれも平安時代前期後半から中期前半(藤原時代初期)頃の秀作です。奈良時代のような古いタイプの仏像のように左右対称ではなく、より人体に近づいた様相が表現された、優麗なS字曲線(自然体)を描く形体を呈しています。いずれも、年に一度、毎年8月20日に開帳され、その端正秀麗な姿を拝観することができます。

中世庄園大田庄の政所寺院であった今高野山の中心的な仏像として千年にわたり守り伝えられた仏像です。

※8月20日は、天候不良等によりご開帳されない場合があります。また、信仰の対象のため、拝観のマナーを守りましょう。



●シリーズ●わがまちの文化財へ30

町指定史跡 茶臼山城

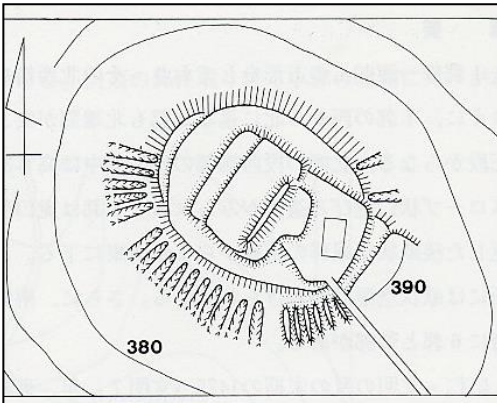
昭和61年10月20日指定

町指定天然記念物 茶臼神社の社叢

昭和44年4月1日指定

南北朝時代に、この地方を支配した山内首藤氏の城とされています。比高差約40mの円形状の独立丘陵上に郭を築き、敵からの攻撃を防ぐ軍事防御施設として、山頂に土塁、斜面に横堀や畝状堅堀などを配しています。

主郭を中心に東西に小さな郭を持ち、それらを取り囲むように帯郭を巡らしており、土塁は主に東側に残っています。一部が後世の開発で破壊されていますが、小規模ながら保存状態は良好で、中世の山城の面影を今に伝えています。現在は小さな社(龍王社)があり、その周囲の社叢(ヒイラギ・カシ・ツバキ・フジなどの古木)が、町の天然記念物に指定されています。



茶臼山城略測図(広島県中世城館遺跡総合調査報告書第3集 1995年 広島県教育委員会編集より抜粋引用)